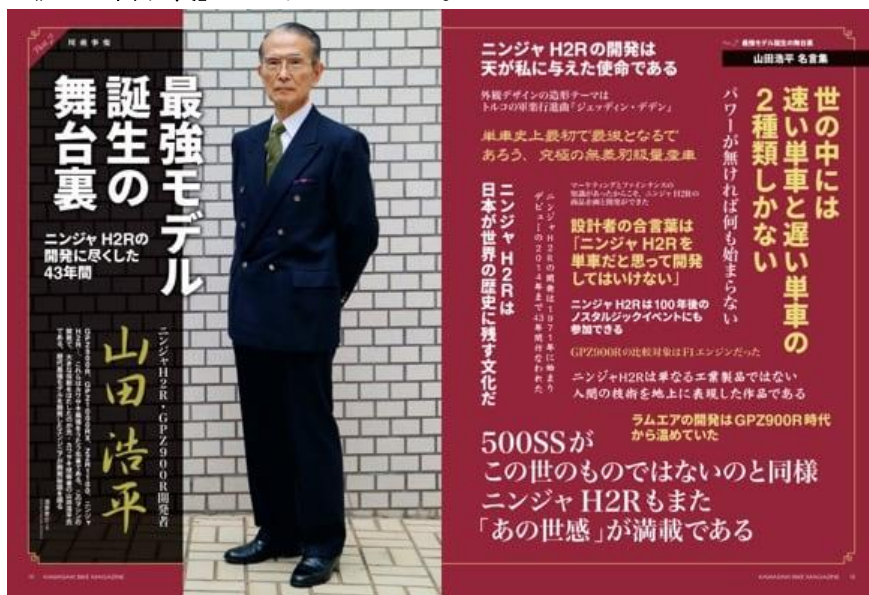


43年間の研鑽と情熱が凝縮！

●関西浦高会からお便りが……！



今日は、浦高同窓会の方から 2 つのメールを頂戴しました。1つ目は、**関西浦高会の佐藤進会長**から「〔前略〕。関西浦高会でも、会員が各方面で活躍していますが、川崎重工で長年バイクの開発に携わられた関西浦高会会員の山田浩平（高23）氏の開発に纏わる記事が昨年12月発売のバイク専門誌にインタビュー記事として掲載されています。PDFで記事のコピーを入手いたしましたので、ご紹介させていただきます」というものでした。記事は、『カワサキバイクマガジン2022年1月』に掲載されている**山田浩平様**のニンジャH2Rの開発に尽くした43年間を綴った「最強モデル誕生の舞台裏」というものでした。



記事のタイトルをご紹介させていただくと……。

■最強モデル誕生の舞台裏〈ニンジャ H2Rの開発に尽くした43年間〉

◆マッハⅢとの衝撃的な出会いが全ての始まりだった

- ・500SS・750SSとの衝撃的な出会い
- ・設計者自らが正統派カワサキファン
- ・過給エンジンこそ完成形／先鋭的な設計思想
- ・GPZ900Rの比較対象はF1エンジンだった
- ・山田氏が所属した3つの組織
- ・ラムエアを試みたGPZ1000RX
- ・無差別級が持つ独特な迫力

◆市販車開発に携わりながらも過給エンジンへの情熱は消えず

- ・ニンジャ系エンジンの生みの親として
- ・Ninja H2Rに役だったジェットスキーの開発
- ・前代未聞のスペシャル車ニンジャH2Rの誕生
- ・少年時代の山田氏を魅了したルーツプロア
- ・43年間の時を経てNinja H2R誕生



〔写真：Ninja H2R ミラーコートマットスパークブラック〕

◆Ninja H2Rは唯一無二の存在へ

山田浩平氏：1953年東京都出身。東京大学大学院機械工学研究過程修士卒。1977年川崎重工業に入社。設計部門に所属LGPZ900R 他エンジン設計を担当する。1994年からカナディアンカワサキモーター

スの社長に就任、マーケティング業務に携わる。2000年からはKMCに移籍し副社長を務める。2003年に帰国した後、開発部門に復帰。MotoGPマシンやジェットスキーの開発に関与。2010年から2014年まで、モーターサイクル&エンジンカンパニーの技術本部長を務め、ニンジャH2Rの開発を主導した。

山田様は、学生時代の500SSとの出会いがカワサキでのオートバイ開発の動機になったそうです。バイクに関しては素人の私ですが、記事から山田様の開発に向けた情熱が伝わってきました。「大いなるな

にかが、私を使ってニンジャH2Rを地上に現したのだと感じています。私の存在はニンジャH2Rというマシンを生み出すための手段にすぎませんでした」「いいモデルを企画し開発するにはファイナンスやマーケティング、セールスなどの知識が必要だと考えたのです。北米時代は、機会を見つけてビジネススクールやマーケティングを勉強しました。技術者の思いは大切ですが、それが利益を産まなければ道楽で終わってしまいます」との言葉に、開発者として最高の作品を創り出された凄さと素晴らしいを感じました。

さて、もう一つは19回「とっくり会」の鯨井光夫さんから会報「麗和／第65号」の記事について、こちらは5月に郵送される会報でお楽しみください。